ねらい

産婦人科の大ピンチずかん 2

第 93 巻 4 号で，子ども向けの大ヒット絵本『大ピンチずかん』にあやかって「産婦人科の大ピンチずかん」を発行させていただいた．コンセプトは，産婦人科医も様々な大ピンチに遭遇する，大ピンチとその対処法を知っていれば大ピンチになっても怖くないというものであった．第 93 巻 4 号の原稿を拝読すると，執筆者の先生方がご自身で加えてくださったピンチも結構あり，そういうピンチもあるのかと気づかされたと同時に，ガイドラインなどには書かれていない裏技を多数知ることもできた．実際，奥の手が書かれた医学の虎の巻なんて，今時，こういう企画でないとなかなか文字として残らないものである．また，企画を理解してくださった執筆者の先生方の多くが，通常のアカデミックなお堅い文面でなく，医局の先輩が若手ドクターに説明するかのような優しい文面になっていた．さらには「ずかん」ということで，皆様，読者のイメージが湧くように絵も描いてくださり，実際に経験された症例を提示してくださった先生もおられ，非常にためになる楽しい企画だと私自身が味を占めてしまった．

大ピンチとまではいかなくても，臨床において困ることはよく遭遇するものであり，経験豊富なドクターにとってはたいしたことのない状況でも，若いドクターには大ピンチになり得るものとして，ピンチの基準を低めにさせていただくと，第 93 巻 4 号の発刊後にも大ピンチとなり得る事態をいくつか思いつき，ほかの経験豊富なドクターはどうやって切り抜けておられるのかも知りたくなり，「産婦人科の大ピンチずかん 2」を特集させていただくこととした．

執筆者は，今回の企画でも大ピンチの対処法を少なくとも 1 つは知っているドクターということで選ばせていただいた．本号が少しでも皆様の診療に役立ち，産婦人科分野の発展に貢献することを期待してやまない．

（帝京大学ちば総合医療センター産婦人科　五十嵐敏雄）

0386-9792/26/￥100/頁/JCOPY

2026/10/07 12:57:20